

大安寺報

第56号



名句・名言に学ぶ

最澄 (天台宗宗祖)

一隅を照らす、これ則ち国宝なり

十二月四日、大変衝撃的なニュースが日本に飛びこんできました。長年、アフガニスタンで医療・開発支援活動を行ってきた中村哲さん(ペシャワール会現地代表)が何者かに銃撃され逝去したのです。献身的に現地の人々を支え、その偉大な功績はアフガニスタンのみならず世界各国に知られていた方であるだけに、その逝去は大変多くの人々を悲しませました。私も前職で関わりがあった九州大学医学部の医療関係者を通してその存在を存じ上げており、テレビ報道などを通して、「敵を作らず、平和な信頼関係を築くことが一番の安全保障だ」という平和哲学とたくいまれなる行動力に触れ、感銘を受けてきただけに大変大きな衝撃を受けています。今はただ、その御霊の安らかならんことを祈るばかりです。

中村さんは九州大学医学部を卒業後、国内病院勤務を経てパキスタン・ペシャワールにて約二十年にわたりハンセン病治療を中心とした医療活動に従事。パキスタン政府からの圧力が強まったことからアフガニスタンに活動拠点を移して医療支援を継続してまいりました。そんな中、二〇〇〇年にアフガニスタンで大干ばつが発生し、感染症が蔓延する事態となり、その惨状を目の当たりにした彼は医療支援と並行して、灌漑・農業・井戸掘削事業を開始し、医療者の枠を超えた献身的な活動を展開しました。一連の事業により、約二百万人もの雇用を生み出し、帰農も進むこととなりました。まだまだその活動を継続する意思を示していた中での突然の逝去に対し、アフガニスタン国民は国を挙げて弔意を示しました。その遺志はきつとペシャワール会メンバーやアフガニスタン国民に受け継がれていくことでしょうし、私自身も含め、彼の生き方に触れた多くの日本人も国際協力継続のために努力していかねばと思います。クリスマスチャンであった彼が大切にしていた

ことばは、意外にも天台宗を開いた高僧・最澄のものです。他者を利益する「利他」の心をもともと持つ一人一人が、自らが置かれた場所で精一杯精進することにより、小さな光の集まりがやがて大きな光となる、というこのことばは彼の生きざまそのものを表しているように思います。

今年はいくつもの自然災害に見舞われ、また経済状況や国際環境が大変厳しい年となり、自分たちが無力な存在であると思われされました。とはいえ、この冒頭のことばと共に、中村さんのたゆみない、一隅を照らす利他の生き方を模範とし、この世界に生きる人々が、皆幸せな生活を送ることができまう、来たる年も共に手を携え力を尽くして参りたいものです。(副住職)



写真：インドの聖なる大河・ガンジスの河岸にて

大安寺の宗旨：曹洞宗 両本山：福井県 永平寺・神奈川県 総持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)

仏事 Q&A 第三十九回

Q、大晦日の行事について教えてください。

A、当山では大晦日と元旦の変わり目に大般若祈禱を行っておりますが、本来、曹洞宗寺院では大晦日特有の特別な法要はありません。ただし、大晦日の夜、深夜零時を挟む前後の時間帯に、「除夜の鐘」を撞く行事が行われます。除夜の鐘は一〇八回撞くと言われます。この数の由来には諸説ありますが、その一つに人間の煩惱や苦しみの数を表しているという説があります。大晦日の夜に鐘を撞くことで私たちの心の塵を払い除き、清い新たな気持ちで正月を迎える、というのがこの場合の趣旨になります。回数理由はさておき、除夜には、過ぎゆく一年を省みつつ、自分や家族などの身近な人々のことだけでなく、世界のすべての生きとし生けるものの安寧を願い、心穏やかに過ごすことが大切です。

※参考『仏事Q&A』(曹洞宗総合研究センター)

ご案内

曹洞宗テレホン法話
曹洞宗宗務庁運営
0120-508-740
携帯の方は 03-3454-5410

曹洞宗テレホン法話
「心の電話」
曹洞宗東北管区教化センター運営
022-218-4444
※2月1日～10日
「初心にかえる」(副住職担当)



令和二年 年回表

一周忌	平成三十一年
三回忌	令和元年
七回忌	平成二十六年
十三回忌	平成二十年
十七回忌	平成十六年
二十三回忌	平成十年
二十七回忌	平成六年
三十三回忌	昭和六十三年
三十七回忌	昭和五十九年
四十三回忌	昭和五十三年
四十七回忌	昭和四十九年
五十回忌	昭和四十六年
百回忌	大正十年

(法事早見表)

【法事の際にご用意いただくもの】

- ①御位牌
- ※仮位牌は、忌明け(二十五日)もしくは四十九日)まで
- ②本堂にお供えする御供物(あげもの)少々(菓子・果物など)
- ※可能であれば前日までに届けてください。当日になる場合は、法事開始十分前までに御持参ください。

☆引き続き墓参をされる場合は、線香・ろうそく・供物・花・洗米(あられ)なども御持参ください。

□除夜の鐘について

令和二年一月一日午前0時より午前二時まで、鐘撞堂にて開催いたします。参加無料・先着順にてどなたでもご参加いただけます。(梵鐘を痛めますので連続で撞くのはおやめください)

各種講座のご案内

(令和二年一月～三月)

- ◆「月例写経・写仏会」(予約不要)
日時：一月二十六日(日)、二月二十四日(祝)、三月二十二日(日) 午後一時～三時半
内容：ミニ法話・写経・写仏・法座茶話会 参加自由
場所：中広間 参加費：五百円 備考：椅子席
- ◆「黄昏坐禅会」(予約不要)
日時：一月十八日(土)、二月八日(土)
午後三時半～五時 ※坐禅指導希望の方は午後三時集合
内容：禅語紹介・坐禅・法座(茶話会) 参加自由
場所：中広間 参加費：無料 備考：椅子坐禅可能 服装：動きやすい服装で。(スカート・ジーンズ不可)

行事カレンダー (令和二年一月～三月)

- 一月一日(水・元旦) 午前0時、
「元朝大般若祈禱」(本堂)・「除夜の鐘」(鐘楼堂)
- 三月十五日(日) 午前十一時～「涅槃会法要」(本堂)
- 三月二十日(金・春分の日) 午前十一時～
「春季彼岸会法要」(本堂)
- ※同日午後二時より、永代供養墓苑合同供養祭を行います。(悪天候時は本堂にて行います)

編集後記

「光陰は矢よりも速やかなり」という道元禪師のお示しにより一層実感を伴う年齢となってきました。一日一日悔いのないよう、来年はさらに精進したいと思えます。(副住職)

次号のご案内

令和二年三月中旬に発行予定です。